

オオサンショウウオの繁殖シーズン到来

①8月2日、神戸市鶴甲学童保育所のサマーキャンプ一行20名が来所し、レクチャーの後に篠野の人工巣穴を見学に行く。人工巣穴№3にオス個体が入っていた。個体№625である。この個体は昨年の7月にも同じ巣穴で確認されている。そして、9月のことになるが卵を護っていた。全長890^{mm}の大型個体である。右前肢は全指欠損で左前肢は第一指欠損右後肢は第三指短小、左後肢は第一～四指欠損という歴戦の強者で、10年間追跡中。

②8月7日、孫をハンザキ研下の河原で遊ばせている時に、首を大きく咬み切られたオオサンショウウオを発見。肩甲骨や脊椎骨が見えているが出血も治まり元気そうに見えたので、谷水を引いている校内の池に収容したが3日目に死亡する。首（背面）だけでなく喉（腹面）にも大きな傷があり、総排出腔開口部周囲の隆起も認められ、解剖結果も精巣の十分に発達したオスであった。全長60^{cm}で、近くのアンコ淵の黒主の99^{cm}には速く及ばず恋のバトルに破れたのであろう。

③“黒主”はアンコ淵のデンマスター

№977と登録された黒主は2004年7月と12月には200^m程上流で合流する支流の長野川において、11月にはハンザキ研付近で確認されている。その後、2006年4月からはハンザキ研・ハンザキ橋の下流10^mにあるアンコ淵の巣穴を定宿にしているのを観察してきた。本種は夜行性が本来であるが、黒主はその頃から強い昼行性を示してきた。それも明るくなり始める5時30分前後に呼吸をするために巣穴から出現するという、大変に規則正しい行動である。私は今まで本種はいい加減なフジーな生き物で、気の向くままに出歩くので、行動を捕捉しがたいと考えていたのであるが・・・

ハンザキ橋に小学生の机と椅子を出して座り込みをしたり、正時にできるだけ確認することを続けた。またハンザキ研の下流の第六堰と上流の第七堰の間300^mを調査G区としているが、夜間にこの範囲を調べても黒主は出勤していなかった。8月20日からは夜間観察用にナイター照明をしながら見ているが、ほとんど夜間の確認はできていない。行動のパターンは穴の上の大岩の浅瀬で数呼吸して戻ると、数メートル下流に打ち寄せられた枯れ木の下で数十分過ごして穴に戻る二つであった。それが、31日の明け方に、突然真っ直ぐに上流へ向かったのである。そこには70^{cm}程の別個体がいたのであるが、黒主の接近に慌てて逃亡。次号をお楽しみに・・・-1-

ロード・キル

交通事故と言うよりも、獣道を人間の都合を優先させた道路によって分断した結果の悲惨な現象と言った方が正しいのだろう。ハンザキ研の川向こうを走る国道 429号線の 300 ㎞程を、早朝に散歩することになっている。バケツとハサミを持ってポイ捨てゴミを拾うと同時に、路上に轢き殺されてベツタンコになっているサンプルを集めている。ゴミの方は空き缶からペットボトル、お菓子の袋や包み紙、レジ袋入りの物、吸殻などなど多数の不埒な人間どもの生態が示されている。集まったゴミは地域の方をお願いして処置をいただいている。自分の出すゴミは基本的には持ちかえっているが、この夏の生ゴミはモリアオガエルのオタマジャクシのお世話になった。アルコール燃料容器のアルミ缶は福祉施設へボランティアで提供している方の家へ運び込んで処理してもらえるので助かる。モリアオのオタマがいなくなったのでゴミ捨て場をブロックで作り鉄板で蓋をしているが、シテムシなど多くの昆虫が良き餌場として集合してくる。これも野生生物への餌付けの一種になるのでは等と悩ましい。考えるよりも実行とコンポストを設置した。残るは合成樹脂製品の残骸だが、荷造りして姫路へ持ち帰り指定日に出すことにしている。

暖かい雨の夜に山間部を車で走った事がある方には、前方の路上に沢山のカエルたちが跳ねていたり轢き殺されて転がっているのを、自身の車でも轢いてしまったであろうことも経験されているでしょう。朝の散歩がてら路上の観察を始めてみると、ある時期には同じ動物が轢き殺されていることに気付いた。シマヘビの幼蛇が一夜で 4 個体とか、モリアオガエルが数匹と言った具合である。道路のハンザキ研側は川で反対側は切り立った岩壁である。冬眠のための移動なのか、小春日和でアスファルト道路の暖かさに引かれるのかサワガニやイモリまで轢かれている。ヤマナメクジやカマキリ、エダナナフシ、ウマオイムシ、スズメバチ、カタツムリなど色々な生き物が犠牲になっている。鼻先のトンガったジネズミは轢かれた形跡は無かったが、路上で死んでいた。ツノの付け根の骨が折れているシカの頭骨や下顎の片方が見当たらないタヌキの骨などもカーブしている道の側の溝から蒐集してきた。タヌキは立ちすくむためによく撥ねられるそうで、シカは数が増えた結果のようである。

珍蛇のシロマダラの幼体も紙のようにベツタンコになっていた。真っ黒の成蛇の死体は地域の人からカラスヘビと呼ばれているが、ヤマカガシの黒化個体であった。これなどは専門家から指摘されねば種名も分かりかねるものであった。わずか数百名の範囲での数か月間の観察でさえ、多種多数のサンプリングができた。日本各地では一体どのくらいの生き物が暗闇の路上で轢きつぶされていることだろうか。動物たちは、その本能のままに順に道を変えることなく生き続けてきたのであり、赤潮のごとく棲息範囲を急激に拡大させてきたヒトは、これらの事実を深く省みて配慮をしていくべきではないだろうか。繁殖や冬眠、日光浴、採餌など彼らにとっては、避けがたい生態の結果の悲劇なのだから。

ハンザキ研・所長ダウン 2

生野の夏は過ごしやすい。クーラー不要の素晴らしい避暑地だ。街中の生活では真夏日や熱帯夜（熱帯の夜は比較的涼しい？）が続きクーラーを使わざるを得ないが、ここは別天地であり下界へ戻る気になれない。今月は13日ずつ2回で26日間を生野で過ごした。しかし、この間に夜間の河川内調査は実施しなかった・・・？ 所長がダウンし精神的に立ち直る事が出来なかったからである。今までにも倒れたことは再々あったのだが・・・

ダウン1

姫路市内の日本工科専門学校の非常勤講師として、ビオトープ論と生態学を週3時間教えることになったのは、昨年9月からだった。2・3月と8・9月は講義が無いので、ハンザキ研の整備に専念できる期間である。今年の春には一年ぶりに梱包してあったダンボール箱百余の蔵書やハンザキ資料の開封と整理のチャンスとなった。箱から本を鷲掴みにしては本棚に並べ、さらに並べ替える作業を続け、久しぶりの対面とどこに紛れたか分からなくなっていた蔵書を見いだす喜びについついオーバーワークとなったようだ。歩数計も軽く一万を越えて身体中の筋肉や関節がストライキを始めた。「コムラ返り」はふくらはぎだけのことと思っていたが、大腿部を始めとして足の甲が上側や下側に引きつれる痛みには閉口した。さらに両手もグローブを付けているかのような感じに腫れ上がり、筋肉の痙攣によって掌骨が重なり合うのは大変な痛みであり、尻の下に両手を敷いて抑えて引きつれが収まるのを待った。4月初旬に自宅へ戻ったが上げ下げして3日間ダウン、アルコール燃料を補う気分にもなれなかった。私の飲酒史上初めての長期(3日で?)断酒となり、専門学校の初講に穴をあけてしまった。

ダウン2

ハンザキ研の朝の日課として校内を一巡することになっている。色々な発見があって興味津々パトロールを続けていた。さあ、夏休みだとばかりにハンザキ研へ出勤した翌日の8月3日午前9時頃、校庭を歩行中に突然に足が宙に浮く感じとなって意識を失った。時間の経過や状況は不明だが、気付いたのは脳天を激しく打ちつけてジャリジャリ！という音（砂利と頭の擦れた音？）が耳に響いてのことだった。鈍い頭頂の痛みを感じつつ自分はこうして死ぬのだと思った。しばらくして起き上がったが、どのくらいの間、倒れていたのか分からぬまま部屋に戻る。左肘の擦り傷と左臀部の鈍い痛みから左足を踏み出した時に、左側へ傾きつつほぼ垂直に尻餅をついたようだ。脳天を地面に打ちつけたのは、痙攣状態を起こしてイナバウア一型になったのだろう。幸いなことは校庭の土の上であったことで、コンクリートや大きな石でもあれば昇天していたに違いない。

このような倒れ方は初めてであり、精神的に大きなショックを受けたが左の尻の鈍痛も一週間程続いた。これは防ぎようのない症状であり夜の川で調査中に発症したらそれまでだと改めて覚悟を固めたが、私のロスタイムのホイッスルは間もないことなのだろう。

ハンザキ研日誌 2006年8月

- 2日：神戸鶴甲学童保育所サマーキャンプで約20名来所、レクチャー後人工巣穴観察
～14日まで調査（GS-210）
- 3日：ハンザキ研に電話“079-679-2939”が開設されました（Fax同番）
：兵庫県立大・三宅研究室の卒論生2名来所、過疎と廃校をテーマに。
- 5日：地域のボランティアによる草刈り・伐採に12名参加、校庭が広がったよう！
- 7日：ハン研横の河原の草付きから首切れハンザキ保護、オスの闘争敗者（9日死）
- 11日：朝来市生野公民館活動で児童20名来所、ハンザキのレクと川遊びの半日
- 12日：丹波市青垣町・NPO 神楽の郷ハンザキ調査（加古川水系小稗川）発見なし
- 13日：丹波市青垣町・NPO 神楽の郷ハンザキ調査（加古川水系稻土川）発見なし
- 14日：姫路市立水族館の調査（GS-211）チームと自称 Mr. ワイルド・ビル及び
日本工科大学・田中都市工学科長他来所
- 15日：大阪府能勢町の武庫川水系天王川の液溜問題に関して現場視察と提言
- 16日：愛知県瀬戸市の庄内川支流蛇ヶ洞川のハンザキ調査の下見と調査方法の検討に
～17日
- 19日：朝来市生野町浜原で県・自然保護協会主催の観察会でレク、約70名参加
：～9月まで継続調査（GS-212）
- 20日：アンコ淵の黒主がAM:5-6時に規則正しく活動し始める（9月も続いている）
：ハンザキ橋の前で車上狙い2件発生、川遊び中の家族等が被害をうける
- 23日：黒川地域活性化協議会開催、お宝マップの作成と朝来市の方針が伝えられ、市
が主導して廃校の整備方針を検討することとなったよし、バンザイ！！
- 27日：夏休みの課題研究に「ハンザキ」をと播磨町の中学生来所
：開設早々の電話が落雷で使えなくなり一騒動あり、無ければ無いで済んだ？
- 29日：朝来市議会・文教民生委員会一行来所、「あんこうミュージアム」構想につい
ての理解を深めて頂けたように思います
- 31日：昨年のハンザキ研開設以来、満一年目になりました。ガス・ランプにカセット
コンロでの一泊が懐かしい出だしでしたが、今ではクーラー要らずの別荘気分
を実感しています。

今月は2回26日間の出勤？でした。来訪者を含めて総計192人の利用です。昨年8月に開所し、満一年間で27回119日、総計630人の利用という状況です。年末に上・下水道が整備されるまでは1～2泊の調査が限度でしたが、12月からは1週間から2週間といった長期連続の滞在が可能になりました。冬の寒さはなかなか厳しいものが有りましたが、夏の過ごしやすさは格別で、クーラー不要の素晴らしい涼しい夏を過ごすことができました。それでも地域の方には暑い夏だったとのこと・・・

写真1 首をバツクリと咬み切られていたオス



写真2 照明を付けてナイト観戦



写真4 呼吸の間隔はテンデム



写真3 出入り痕が白く見えている



写真6 轢き殺されたトノサマガエル



写真5 地域ボランティアによる伐採と草刈り

